

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	学年科目						薬学教育モデルコアカリキュラム 大項目との対応	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
1. 幅広い教養と語学力	・医療人に求められる高い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。	医療人に求められる高い教養と世界に通用する語学力を修得するため、1-2年次において教養科目等や英語基礎科目を履修する。加えて地域社会に貢献できる能力を身につけるため「しずおか学」科目群からの履修を必須とする。3年次からは卒業研究配属研究室ごとに行う研究室セミナーである「総合薬学演習」及び卒業研究にあたる「総合薬学研究」において、学生独自のテーマについて研究を行いながら、最新情報を外国語で収集し、世界に発信できる能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポート、口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表において成長過程も併せて評価する。	教養科目 しずおか学 フレッシュマンイグ リアージュIA フレッシュマンイグ リアージュIIA フレッシュマンイグ リアージュIB フレッシュマンイグ リアージュIIB 身体運動科学 数理・データサイエンス・AI入門 科学演習 情報科学	教養科目 しずおか学 英語コミュニケーション 英語コミュニケーションII 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV	薬学英語		イグ リアージュリサーチプレゼンテーション		B. 社会と薬学 G. 薬学研究	
								アドバンスト実務実習-国際医療 総合薬学演習 総合薬学研究		
			薬学講座 海外研修英語（配当年次なし）							
2. 医療人としての倫理観とコミュニケーション能力	・生命倫理及び患者の人権を最も優先するという強い倫理観を身につけている。 ・患者の命を守るという強い責任感・使命感を身につけている。 ・医療人として必要なコミュニケーション能力を身につけている	生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観と使命感を涵養し、医療人として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、講義科目（「倫理学」「医療とコミュニケーション等」）に加え、幅広い職種に触れる科目（「薬学概論」「薬学講座」）や体験型学習（「早期体験学習」「科学演習」）を通して必要な知識を修得するとともに医療人としての自覚を育む。3年次からはより高度な倫理観と使命感を修得するため、実務実習科目関連科目（「実務事前実習」「薬局実務実習」「病院実務実習」等）を履修する。また「総合薬学演習」や「総合薬学研究」における研究活動を通して、自然科学と医療との結びつきを根源から深く理解し、人類の健康長寿に貢献することへの使命感を養成する。さらに全学年を対象とした「薬学講座」では、薬害被害者等の講演から、倫理観・使命感を体得する。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポートなどを用いる。体験型学習や実習科目ではポートフォリオやルーブリック等を用いて評価する。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	命と倫理 薬学概論 科学演習	薬学と社会Ⅰ 医薬品安全性学 漢方薬学	医療とコミュニケーション学 薬学と社会Ⅱ 臨床医学総論			病院実務実習 薬局実務実習 静岡救命連携演習 アドバンスト実務実習-地域医療 アドバンスト実務実習-国際医療 アドバンスト実務実習-臨床薬学 総合薬学演習 総合薬学研究	B. 社会と薬学 G. 薬学研究	
								薬学講座 臨床薬学演習IV		
3. 高度な知識と技能	・基礎科学に裏打ちされた最先端の知識と技能を有している。 ・情報共有及び課題解決に必要な能力を身につけている。	基礎科学に立脚した最先端の薬物治療を理解するために、1～2年次には物理学、化学、生物学などを基盤とした基礎科目及び共通専門科目を学修する。これらの科目の学修によりディプロマ・ポリシー「高い臨床能力」を修得するための基盤を作る。また、2～3年次には基本的な研究方法を修得するための実習（「物理系薬学実習」「化学系薬学実習・Ⅱ」「生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」）を実施する。これら基礎薬学の知識と技能の修得は、科学的思考に基づく問題発見・解決能力の基盤となり、それらの能力を実践的に活用し、高度化するため3年次後期から「総合薬学演習」と「総合薬学研究」に取り組む。それらの科目では各学生独自のテーマの研究を遂行することにより、先導的立場の薬剤師や研究者に求められるより高度な科学的知識と問題解決能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	臨床薬学演習Ⅰ 物理学 基礎化学 数学Ⅰ 数学Ⅱ 無機化学 有機化学Ⅰ 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 生物化学Ⅰ 生物化学Ⅱ 統計学 科学演習 機能形態生理学Ⅰ	臨床薬学演習Ⅱ 有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ 有機化学Ⅳ 生薬学 物理化学Ⅲ 生物物理化学 生物化学Ⅲ 生物化学Ⅳ 微生物学 免疫学 機能形態生理学Ⅱ 機能形態生理学Ⅲ 薬物動態Ⅰ 薬理学 物理系薬学実習 化学系薬学実習Ⅰ 化学系薬学実習Ⅱ 生物系薬学実習Ⅰ 生物系薬学実習Ⅱ	臨床薬学演習Ⅲ 薬品分析化学 創薬科学 薬物動態Ⅱ 医薬品安全性学 漢方薬学 薬学と社会Ⅰ 医薬品情報学Ⅰ 医薬化学 有機合成論 薬品製造論 遺伝子工学 継続生物学 生物統計学 微生物薬品学 薬生理学 薬剤系薬学実習 薬剤系薬学実習 医用工学実習 総合薬学研究	臨床薬学演習Ⅳ 薬学と社会Ⅱ 医薬品情報学Ⅲ 医療とコミュニケーション学 臨床薬物動態学 薬物療法Ⅲ 疾患学Ⅲ 疾病学Ⅲ 調剤学 薬用工学概論 臨床検査総論 臨床薬学 臨床薬学 病院実務実習 薬局実務実習 静岡救命連携演習 アドバンスト実務実習-地域医療 アドバンスト実務実習-国際医療 アドバンスト実務実習-臨床薬学	C. 基礎薬学 D. 医療薬学 E. 衛生薬学 G. 薬学研究			
4. 高い臨床能力	・医療現場で遭遇する様々な問題を発見・解決する臨床的な能力を身につけている。 ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に貢献できる。 ・医療薬学に根ざした研究を計画・遂行する能力を身につけている。	薬物療法を提案し主体的にチーム医療に参画するために必要となる知識は、主に2年次から4年次前期に開講される科目を通して修得する。1～2年次に開講される基礎薬学の履修と関連させ、2～4年次に医療薬学の知識を修得するための共通専門科目及び薬学科専門科目を配置したカリキュラムを構成する。また実習科目（「医療系・生物系薬学実習」「薬剤系薬学実習」等）により、医療薬学や臨床薬学の知識や技能を修得する。業務行政・保健衛生に関連するレギュラトリサイエンスを理解するための科目も1～4年次に開講される。さらに、学年進行に合わせて、学生の知識レベルに配慮した臨床症例を題材として、知識を統合して薬物治療を提案できる能力を養成する。実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）では、実際の医療現場で主体的に薬物療法を提案し、チーム医療への参画実践することにより、より高度な臨床能力を身につける。6年次には「臨床薬学演習」にチューターとして参画することにより、それまでの学修を振り返ることで知識の定着をはかる。3年次後期から取り組む「総合薬学演習」と「総合薬学研究」では、各学生独自のテーマの研究を遂行しつつ、医療・業務行政・保健衛生・医薬品開発等に携わることのできる高度な臨床知識や問題解決能力を身につける。 これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。演習科目や実習科目では、上記の評価方法に加え、ポートフォリオやルーブリック等を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、学会・研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。	公衆衛生学 衛生薬学Ⅰ 衛生薬学Ⅱ 放射化学 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 製剤学 薬劑学 薬物動態学Ⅰ 臨床検査学 薬学と社会Ⅰ 臨床検査学 医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ 遺伝子診断学 薬理学Ⅲ 薬理学Ⅳ 毒性学 医薬品安全性学 微生物薬品学 医療系・生物系薬学実習 薬剤系薬学実習 医用工学実習 実務事前実習 総合薬学研究 臨床薬学演習Ⅰ 臨床薬学演習Ⅱ 臨床薬学演習Ⅲ 臨床薬学演習Ⅳ	薬学と社会Ⅱ 医薬品情報学Ⅲ 医療とコミュニケーション学 臨床薬物動態学 薬物療法Ⅲ 疾患学Ⅲ 疾病学Ⅲ 調剤学 薬用工学概論 臨床検査総論 臨床薬学 臨床薬学 病院実務実習 薬局実務実習 静岡救命連携演習 アドバンスト実務実習-地域医療 アドバンスト実務実習-国際医療 アドバンスト実務実習-臨床薬学	B. 社会と薬学 D. 医療薬学 E. 衛生薬学 F. 臨床薬学 G. 薬学研究					
5. 自己研鑽	・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。	創薬科学・生命薬学・医療薬学・臨床薬学及びその融合・接合領域で先導的役割を担い、生涯にわたって自己研鑽し後進の教育に積極的に関わる使命感を涵養するための科目を1～6年次に履修する。「早期体験実習」「薬学概論」及び実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）により、幅広い職種に触れロールモデルから自己研鑽の重要性を感受する。「臨床薬学演習」（6年次）、「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、チューター活動並びに研究活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の態度を養い、後進の教育に積極的に関わることでその重要性や具体的な技能を修得する。 これらの評価には、レポートやポートフォリオ、ルーブリック等を用いる。	科学演習	薬学と社会Ⅰ 臨床医学総論	病院実務実習 薬局実務実習 静岡救命連携演習 アドバンスト実務実習-地域医療 アドバンスト実務実習-国際医療 アドバンスト実務実習-臨床薬学	G. 薬学研究				
								総合薬学演習 総合薬学研究 臨床薬学演習IV		
			薬学講座							